

KTK

NO.93

後援会費郵便替口座  
01070-7-32145  
あらぐさ後援会

# あらぐさ通信

編集 あらぐさ後援会  
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会  
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3  
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215

## 「創ⅩⅢ」に向けて“あったかグッズ”準備中



2月14日～16日に作品展『創ⅩⅢ』が開催されます。あらぐさでは今、テーマ『あったかグッズ』の目玉になるオブジェ“大きなゆきだるま”を作っています。

ちぎったフェルトを大きなボールに巻き付け体作り。少し隙間が空いているところも丁寧にフェルトをくっつけて、両手でごしごし…。大迫力の雪だるまです。顔のパーツ、背景もみんなの力を合わせて頑張っています。

あったかい気持ちになってもらえるような作品展『創』楽しみにしててください！

### ～えがおの手しごと展～ 創ⅩⅢ

テーマ『あったかグッズ』  
あらぐさ利用者の作品展示  
＜さをり、染め、フェルトなど＞

＜日時＞ 2月14日(日) 正午～午後6時  
15日(月) 午前9時～午後6時  
16日(火) 午前9時～午後3時  
＜会場＞ 長岡京市立産業文化会館

## 一日ワイワイと賑やかに交流

昨年10月25日に、『第4回みんなおいでよ～あらぐさひろば』（あらぐさ後援会主催）が開催されました。たくさんの団体や地域の方に参加していただき、わいわいと賑やかな1日となりました。今回

は創設30周年・法人化10周年ということで、参加団体からあらぐさへメッセージをいただき、後援会からもあらぐさの理念である『どんなに障害が重くても、学び育ったこの地域で、豊かに暮らし続けたい』を掲げた垂れ幕の



お披露目もありました。垂れ幕は、参加者の「3、2、1」のかけ声と共に幕が下ろされ、歓声があがりました。

### 「年表で見るあらぐさの歩み —ともに歩んだ30年—」を発行

あらぐさ福祉会は、「歩み」の冊子（A4判35ページ）を昨年10月に発行しました。あらぐさの歩みを5つの角度から分析し、「あらぐさ前史」、「あらぐさの誕生から現在」を写真も使い、読みやすく編集しています。これからの「あらぐさ」のために学び、検討しあう貴重な資料ができました。



恒例の福引きでは、名前が呼ばれると会場が拍手に包まれ最後まで大盛り上がりでのひろばでした。

## 30年の歩みを展示

### 「あらぐさ歴史街道」

あらぐさ創設30周年・法人化10周年を節に、あらぐさでは“korekara あらぐさ事業委員会”を立ち上げ、30年の歴史を学び、これからのあらぐさに何が求められているのか職員全体で検討してきました。

また、職員だけでなく地域の方にもあらぐさ30年の歴史を見ていただくということで、事業委員会が「あらぐさ歴史街道～この街が好き～」という企画を考えました。『みんなおいでよ～あらぐさひろば』で30年分の写真やパネル、作品の展示を行いました。展示を見て、思い出を語ってくださる利用者さんのお母さんや、あらぐさ支援バザーの参加人数を見て驚く方、初めてあらぐさに来られて、みんなで協力してあらぐさを創り上げてきたことを知り涙される方もいました。展示を見て感想を書きいただき、設置されている『ねがいの樹』に感想を貼って樹を実らせていきました。

次頁に感想を紹介します。

## ねがいの樹

我が家の3人の子供達も30歳を超えました。地域のPTA活動の一環として、あらくさバザーに参加させていただいた日々が懐かしく思い出され、うちの子供達にもあらくさが思い出の一端に残っているはずです。地域に根づく活動を重ねて来られた証が我が家にもあります。

親の熱い思いで本当にこの素晴らしい所ができ、よかったなと素直に思います。

地域で頑張ってこられた様子がよく分かる展示で、今後も応援したく思います。

今日、初めて来ました。あらくさ30年おめでとうございます。皆様、力を合わせて作り上げ立派にされたこと尊敬いたします。私は自分の弟のことが浮かび、涙がとまりません。この地域に住んでいたら笑って暮らせたのにと、弟の人生を思いました。ありがとう。

利用者さんお一人おひとりが豊かに生活できる場所として、これからも協力させていただけることがあれば、また、お力になりたいと思いました。

30年のあゆみがよく分かる展示でした。素晴らしいもので、かわいらしい当時の写真に思わず笑みがこぼれました。表情が生き生きしていて素晴らしい写真ですね。

今までと違ういろんな事、高齢化などあると思いますが、いつまでも「自分の場所」でいてあげて欲しいと願っています。

30周年おめでとうございます。色々、苦難なことや楽しいことを少しだけ知っているものです。ますますこれからも、良い方向に進んで下さい。

## さる干支置物

〈ワークセンターあらくさ〉

### 作品介绍



楽しみながら織り上げたさをりを、もっと大勢の方に知ってもらいたい…。そんな思いを込めて作りました。小さな作品ですが、大きな思いが込められています。〈販売価格 1個450円〉



# 丹後から乙訓へ



まさと君は29歳。お父さん、お母さん、お兄さんとお姉さん、家族に支えられて元気にあらぐさに通い、いろどりで暮らしています。

## 生い立ち



まさと君は、お母さんが42歳の時、網野で生まれました。生後国立舞鶴病院で脳波にてんかん発作があることがわかりました。1歳から2歳半までは右京病院でアクスの治療を受け、母子入院をくりかえしました。網野の兄妹、大阪に単身赴任のお父さん、一家は3か所に分かれて暮らしていました。

3歳から3年間、右京病院と聖ヨゼフ整肢園に月1回通院しました。朝6時30分に網野を出て、夜10時頃に帰宅。帰りの電車は6時までないので、寒い日もホームの待合室で何時間も過ごしました。おぶっているママコートの中でまさと君が反り返り、お母さんの背中が折れそうになっていました。その後、学校を卒業したお姉さんが、免許をとり、通院時は送ってくれるようになりました。



右京病院で保育所に入るようすすめられ、当時障がい児の入所は前例がなく、町長に話をし、3歳児から保育所に入所できるようになりました。保育所に畳を敷いてもらい、加配の保母さんもつきました。子どもたちも、まさと君に一生懸命かかわってくれました。後日、網野の保育所から、保母さんが向日が丘養護学校へ研修に行くことも実現しました。

地域では、峰山にある丹後療育教室に通っていました。そのためにまさと君が4歳の時にお母さんは運転免許をとりました。

3年間障害を治すと信じてがんばりましたが、就学前に病院から、脳のてんかん発作は治らないと言われ、どう帰ったのか、覚えていない程の大きなショックを受けました。

## 就学 向日が丘養護学校へ



就学の事を考えるために、向日が丘養護学校を見学しました。肢体障害の子どもたちが、みんなとても明るく、いきいきしていました。それで向日が丘に決め、兄妹たちも自立したので、思い切って長岡京市に転居しました。その当時、車イスの子がバスに乗るのは困難で、通学はお母さんが送迎しました。入学当初はお母さんは大きな不安を抱えていました。そんな時、放課後の訓練室で一緒に訓練をするお母さん達と親しくなり、元気になりました。

学校ではミキサーやパソコンの画面の色等ビッグスイッチで自分で操作するようになりました。今もビッグスイッチで色々な活動をしています。

中3と高2の時に寄宿舎を体験しました。高3で初めてバス通学が認められました。自動車に乗るのが好きなまさと君は、バス通学がとてうれしくて毎日楽しんで学校に行きました。

## 大手術に挑戦



中2の時、背骨が変形し、車イスに2時間以上座っていることがむずかしくなり、食べた物をもどすようになりました。中3の修学旅行の事も考え、当時9kg、手術にはぎりぎりの体重で、悩んだ末、母は手術を決めました。手術の輸血用の採血のために毎週名神高速道路を守山の病院に通いました。

手術は朝8時～夜8時まで体力が持つかどうか命がけの大手術でした。丹後から親戚の人たちも来て

待合室で待機しました。まさと君は大きな試練の手術をのりこえました。今は背中に入っているチタンと背骨が一体化して背中がまっすぐになり、どんどん成長して30kgの体重になりました。

## 障がい児学童「わっしょい」と 「豊かにする会」に参加して

入学してからは長期の夏休みを過ごすのは大変なので「わっしょいクラブ」に参加しました。親当番があり、学生指導員さんと活動します。しんどいですが、学生指導員と他のお母さんといっしょに資金作りや、運営などががんばりました。

その頃「京都障がい児・者の生活と教育を豊かにする会」の活動で、府下の養護学校の親が集まり、学童保育の自主運営が大変なことや卒業後進路の問題、養護学校での先生不足の現状などを話し合いました。毎年12月には全国で3000万に近い署名を集め、国会請願に行きました。お母さんは色々な活動に参加していました。



### 「あらぐさ」の仕事と

### 「いろどり」の暮らし

高等部を卒業して進路は「あらぐさ」になりました。お仕事をして、月末に分配金1000円が支給されます。何に使う?と聞き、最近は「小倉山荘」の980円のパフェにはまっています。店員さんとも顔見知りの仲になり、いい雰囲気です。

みんなの運動でケアホーム「いろどり」ができ、入所できてとても感謝しています。ケアホーム入所の時にははいよいよ親元から自立し、巣立つのだと思いました。まさと君がスムーズにケアホームの生活に入れて一番なによりです。月曜日の朝は「あらぐさ」と「いろどり」に行けるのが嬉しくてお迎えの車を待ち遠しくしています。反対に金曜日に家に帰る時は、がっかりし元気がありません。

夏場、土曜日はガイヘルさんと向日市のプールに行きます。土曜日の夜は入浴介護もあります。日曜

日のガイヘルは月に1度のため本当はもっと出かけたのですが、ヘルパーさんが足りないので実現していません。

まさと君は音楽が大好きです。学校時代から教室の音楽テープをすりきれるほど聴いていました。テレビの「おかあさんといっしょ」は今もずっと大好きです。お母さんのハーモニカのレッスンも喜んで聴いています。



まさと君の家ではお誕生会や何かあると兄妹の家族が集まり食事をして賑やかです。多い時は20人ぐらい集まります。

### お母さんの事



お母さんは向白市の公民館サークルでハーモニカを習っています。グループで社協まつりや老人デイサービスでボランティア演奏に出かけています。家では着物のリメイクで普段着の洋服を縫っています。

まさと君が親戚れしたせい、最近は丹後の海がなつかしく、帰りたいなと思うことがあるそうです。お母さんの夢です。

### 〈お母さんからメッセージ〉

国立舞鶴病院で「この子は2歳までしか生きられません。」と宣告されましたが、今日まで、さまざまな事を乗り越えて29歳! 大勢の方々にお世話になりました。すべての方にお礼が言いたいです。そしてまさとが大勢の方にお世話になった分、微力ながら、なにかの形で、世の中にお返しができると思います。(取材:前田幸子 真殿尊子)

# とっておきの一枚

## ケアホーム いろどりの 誕生日会



10月・11月にききょう棟の利用者さん2名の誕生日会を開き、お祝いをしました。

10月の誕生日会では、主役の利用者さんはフライドポテトが好物との事で、夕食と一緒にフライドポテトを作りました。食後に揚げたてのポテトを食べました。支援員がフライドポテトと生チョコケーキを並べると、ケーキよりもフライドポテトに手が伸びて待ちきれない様子でした。他の皆さんも、早々に完食されていました。

11月の誕生日会でのメニューは、主役の利用者さんの大好きな餃子とデザートにアップルパイとコーヒーゼリー。夕食前には待ちきれず何度も台所を覗かれ、体を揺らしながら楽しみにされていました。

目の前で焼いたできたてのものを食べてもらいたいとホットプレートの上に乗せるお手伝いをしてもらいました。「早く食べたい!」と心待ちにされていました。皆さんでたくさん食べました。

(ケアホームいろどり 森山 歩未)







障害福祉センターあらぐさ 職員

鞍貫 聡史 さん

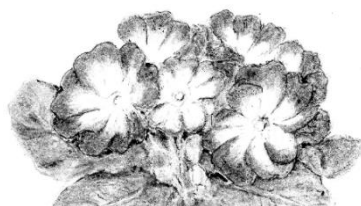
デイセンター2の鞍貫です。昨年の4月からあらぐさに勤めています。仕事を覚え、メンバーのみなさんの事がだいぶ分かるようになってきました。毎日楽しく働いています。

あらぐさで働く前は保育士をしていました。昔から子どものお世話をすることが好きで、将来は園長先生になるぞ！とっていました。保育士は9年間勤めました。その中で、担任するクラスに脳性麻痺の子が入園してきたことがありました。その子は全身介助が必要であり、クラス全体を見ながら食事や着替え、排泄等つきっきりにもなり、障害のある方を保育する事が初めてだった私は、最初は不安ばかりでした。食事が上手くできなくて、刻み食やとろみをつけた食事に変えてみたり、バギーの高さを変えてみるなどしてようやく美味しく食事をしてくれるようになりました。その時の嬉しそうな笑顔は忘れられません。この事がきっかけで、障害のある方の施設で働きたいと思うようになりました。

そんな時に運命的に出会ったのが、就職フェアで残り時間最後の10分に滑り込みで話しをきかせて

いただいたあらぐさでした。その後「あらぐさひろば」にも参加させていただく中で、メンバーさん、職場の雰囲気に着かれ転職を決めました。

仕事が始まり、最初はメンバーさんの伝えたいことやこちらからの伝え方が分からなくて悩むこともあり。草刈りの時に、伝え方が悪くてせっかく一緒に育てたゴーヤを刈り取られた時には頭を抱えました。それでも親しく話しかけてくれたり、身振り手振りで頑張って伝えようとしてくれて、ようやく分かるようになった時には悩みなんて吹き飛びました。今はみなさんと苦労して創り上げたものを誰かに買って頂ける事が何よりも嬉しいです。これからもメンバーのみなさんとたくさん関わって、一緒に楽しく充実した生活が送れるように頑張りたいと思います。今後ともよろしくお願ひします。



## あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

9月1日～11月30日 敬称略・順不同

芦田幸子 東淳子 東俊明 厚地芳美 網谷億子  
荒木満 栗田土郎 栗田紀江 井垣優 石井憲生  
石原洋子 伊丹路恵 伊藤勝久 伊藤弘紀 井上  
治夫 今井和子 今井正 植田進 浦さち子  
江後良平 大江潤 大江貴光 大島武子  
株式会社オオタニ罐詰 岡田多賀子 奥田保  
乙訓手をつなぐ親の会 医療法人社団片岡診療所  
片岡卓三 桂誠司 桂澄江 要建設株式会社代表  
取締役社長三輪泰之 金原医院金達龍 鎌田桂子  
亀山照美 神田千秋 木村栄美子 木村忠 久保  
節子 窪島敏子 上坂愛子 粉川晴美 小山一子  
近藤健二 佐伯敏子 阪田正博 坂本憲哉  
佐々木郁子 佐々木久子 佐野さかえ 四方政則  
島津絢子 嶋本芳輝 嶋本美恵 下尾医院下尾  
和敏 新免富美子 有限会社スマイルケア 関  
節子 滝川正幸 武永健二 武山彩子 田中洋行  
谷早苗 谷口奈緒子 丹野かほる 塚上公治

堤りつこ 時田麻里 内藤時子 長岡天満宮  
中田孝子 中野智恵 中村時雄 中村智江 夏原  
典子 野坂京子 野々下國男 野々下靖子 橋本  
さつき 長谷川長昭 畠中清子 畠中勇治 濱川  
君代 林広子 東田孝夫 平野みどり 廣瀬彩子  
福井悦子 藤井久子 藤本秀延 別府哲 本多  
三郎 前田良子 松井幸子 松浦佳織 松島朱美  
松田恵美子 松本英里 松山幸次 松山直子  
丸岡敏夫 丸岡正子 丸岡勇毅 水谷和夫 水谷  
美穂 南俊秋 三宅州人 宮嶋均 村上久代  
森上郷 森下洋子 森本達也 八木勝光 八木  
弘行 矢島弘之 安井洌 安井裕之 有限会社  
ヤスイカメラ 安田拓史 安松美佐子 藪見  
富喜男 山中啓三 山中章二 吉永和子 吉本  
久枝 米田多満子 和田廣茂 和田正子 渡邊  
一翔  
匿名15名

後援会会員更新がお済みでない方は、同封の振込用紙にてよろしくお願ひします。  
ご入金と行き違いの際はご容赦ください。

きょうされん第39次国会請願署名・募金へのご協力のお願ひ

「あたりまえに働き えらべる暮らしを ～障害者権利条約を地域のすみずみに～」  
の署名スローガンはあらぐさの理念とも重なる部分があります。全ての人の権利と命が  
大切にされる社会を目指すため、ご協力お願ひします。



1992年6月5日 第3種郵便物承認（毎月1回25日発行）2016年1月26日発行  
KTK増刊通信巻第4394号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会  
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町519 京都府社会福祉会館4階  
京都医療病院内 発行人 高谷修 頒価50円（購料は会費に含まれています）

KTK  
あらぐさ通信